

令和2年度 労災疾病臨床研究事業費補助金  
ストレスチェックの集団分析結果に基づく職場環境改善の促進を目的とした  
調査項目及びその活用方法論の開発  
(190501-01)

研究代表者：	井上 彰臣	産業医科大学 I R 推進センター・准教授
研究分担者：	堤 明純	北里大学医学部・教授
	江口 尚	産業医科大学産業生態科学研究所・教授
	渡辺 和広	東京大学大学院医学系研究科・助教
	岩田 昇	桐生大学医療保健学部・教授
	小田切優子	東京医科大学医学部・講師

### 研究目的

労働者のメンタルヘルス対策の一次予防として、職場環境改善が有効であるという科学的根拠が蓄積されている。わが国では、ストレスチェック制度が義務化されて5年が経過し、努力義務である集団分析の結果を活用した事業場の割合は51.7%（平成29年10月末時点）と報告されているが、第13次労働災害防止計画では、ストレスチェックの集団分析結果を活用した職場環境改善の更なる普及が求められている。これまでに、集団分析結果の返却ツールとして「仕事のストレス判定図」が開発されているが、その内容は限定的であり、十分に活用されていないのが現状である。また、「職業性ストレス簡易調査票」の57項目だけでは、多様な事業場の課題を包含しきれていないと言いきれない。そこで本研究では、集団分析結果を活用した職場環境改善を更に普及させるとともに、多様な事業場の課題にも対応できるよう、「多くの調査項目の中から、各事業場が自ら必要な項目を選定する」ことをコンセプトに、大量の調査項目プールを作成し、その中から各事業場が必要な項目を容易に選定できるような活用方法論を開発することを目的とする。

### 研究方法

3年計画の2年目である令和2年度は、1. テキストマイニングの結果に基づいた調査項目案の作成、2. 調査項目プールを用いた項目反応理論（Item Response Theory : IRT）解析とコンピュータ適応型テスト（Computerized Adaptive Testing : CAT）のシステム化、3. ステークホルダーを対象としたストレスチェックとしての CAT の事業場での活用可能性に関する検討、4. CAT のインターフェースに関するヒアリング調査における質問項目の検討、5. 労働安全衛生マネジメントシステム（Occupational Safety and Health Management System : OSHMS）を取り入れた活用方法論の構成の検討を行った。

## 研究成果

1. 昨年度実施したテキストマイニングによって構築した2つのトピックモデル（事業場が課題とする事項 [10 トピック]、事業場が目標とする事項 [10 トピック]）から得られた示唆に基づき、測定されるべき概念（それぞれ8概念、15概念）を考案するとともに、これらの概念を測定すると考えられる調査項目（それぞれ40項目、75項目）を新たに作成した。

2. 昨年度までに作成した調査項目プールに、上記で新たに作成した調査項目を追加した362項目を用い、労働者10,000名（回答者の負担軽減のため、362項目を5つの項目群に分割し、各項目群でそれぞれ2,000名）を対象としたWEB調査を実施した。IRTに基づく解析によって、得られたデータから各尺度項目の項目特性パラメタ（識別力および閾値）を推定し、CATのシステム化を行い、そのプロトタイプを作成した。

3. ストレスチェック制度に関わる多様な関係者に参加を打診し、ステークホルダー会議を開催した。CATの概要およびその回答方法について、作成したプロトタイプを用いて説明を行い、事業場での受け入れやすさ等、CATの活用可能性に関する事項について参加者から意見を聴取した。挙げられた意見から、今後の課題を抽出・整理した。

4. 上述のステークホルダー会議によって得られた情報を踏まえて、CATのインターフェースに関するヒアリング調査の対象者および質問項目を検討し、来年度のヒアリング調査に向けての準備を整えた。

5. 昨年度に整理したマニュアルの構成要素のうち、体制の整備、情報の取り扱い（情報の共有）、集計・分析方法、リスクの把握（リスクアセスメント）といった、ストレスチェックの集団分析を活用した職場環境改善を自律的に進める部分（主にCATを活用したリスクアセスメントの部分）を中心に構成を検討した。参考文献、ステークホルダーの意見、班員との討議をもとに、（1）項目の選定、（2）CATを用いたストレスチェックの実施、（3）職場環境改善の実施、（4）再評価、（5）Q&Aの5つの要素からなる構成案を作成した。

## 結論と今後の展望

「研究方法」で挙げた5つの研究課題について、概ね当初の計画通りに遂行することができた。今年度は、各事業場でストレスチェックを実施する際に、多様な課題に対応できるよう、調査項目プールを充実させるとともに、これらの調査項目プールをコンピュータに組み込み、職場の特性を短時間かつ高精度で測定可能なCATのシステムとOSHMSの枠組みで自律的に職場環境改善を進めていくためのマニュアルのプロトタイプを作成した。来年度は、これらのプロトタイプを複数の事業場で試用して有用性評価を行うとともに、ステークホルダー会議で挙げられた意見等を踏まえ、実装に向けてCATとマニュアルの完成を目指す予定である。